

平成 27 年度 「聴講生科目一覧」

<学科・専攻名：人間生活学科 生活クリエイション専攻>

NO	科目名	担当者	開講時期	授業形態	授業のねらい（内容）
1	日本国憲法	棟久 敬	前期	講義	日本国憲法のなかで、教職において特に必要な分野の基本的な知識を理解してもらうために、条文の意味などについての解説を行う。そのうえで、理解をさらに深めてもらうために、憲法に関する身近な事例や問題を紹介したい。
2	日本文化史	佐藤智広	前期	講義	日本の歴史と文化を学びながら、日本に住む者の精神構造を考える。なぜブログやツイッターが流行するのか、なぜ装飾が好きなのか、といった身の回りのことがどこに根ざしているのかを考え、受講生がそれぞれに自分なりの文化史観を持てるようにする。
3	心理学	中川秋美	後期	講義	心の仕組みや働きを知ることで、日々の生活の中で生じる人間関係のストレスに関しての自己洞察力を高め、トラブルに対してより客観的な判断力を養うことが期待できる。健康な心のあり方を保つための考え方や生活の工夫、周りで起こっている問題の分析方法などについても学習し、人間関係に関する理解や洞察を深める。
4	文学	佐藤智広	後期	講義	様々なジャンルの文学作品の講読を通して、大学生としての文学に関する基本的な教養を身につける。文学史的な知識だけではなく、作品解釈

					の姿勢と感受性を高めることに重点を置く。教材としては、現代まで受け継がれた古典作品を中心として、教養を身につけると同時に、自己を高められるようにする。
5	日本語表現	佐藤智広	後期	講義	様々な日本語の表現方法を学び、大学生としてふさわしい日本語表現力を身につける。見落としがちな誤った表現、しゃべりことば、誤字脱字といった基本的なことを習得し、その後、まとまった分量の文章で、自分の考えを述べられるようにする。手紙のような敬体文にも習熟する。
6	科学の世界	蓮沼良一	後期	講義	どのように地球上に生命が誕生したのか。地球誕生から生命の誕生、単細胞生物から多細胞生物、海から陸へ、魚からヒトへ、進化の経路をたどり、人間とはどのような生物なのかを考え、人類の環境との関わりや今後の方向性を考察する。ヒトの発生から老化、脳、遺伝子など人体についての生物学的な知識を学ぶことをねらいとする。
7	教養数学(統計)	田中正夫	後期	講義	統計は、社会科学、自然科学、人文科学の研究、行政や社会・経済活動、家庭生活など、様々な分野で使われている。本講座では、統計の具体的なデータを用いて統計の基礎知識を身に付ける。また、正規分布する統計資料を中心に、統計数値の見方や分析方法について学ぶ。
8	国際理解	森 保裕	後期	講義	国際社会に関する基礎的な知識を身につけ、複雑な国際問題を読み解き、自ら考える能力を養う。みなさんは海外へ行く機会もあるでしょうし、日本国内の在留外国人も増加し、外国人と接する機会は増えている。卒

					業後の職場にも外国人やハーフの子どもたちがいるかもしれない。そうした人たちとうまく意思疎通を図るためにも異文化理解はとても重要である。
9	人間学	大原あゆみ	後期	講義	先人達の思索によって生み出されてきた様々な「ことば」を手がかりとしながら、現代社会に生きる私たちにとって切実なテーマについて丁寧に考察する。その際、哲学的な議論と私たちの身近に生じている諸問題とを密接に関連づけながら、より具体的に考えていきたい。
10	ボランティア社会学（実習を含む）	矢野明宏	前期	講義	災害時や地域貢献に対して、地域活動と連携したボランティア活動により学生の社会認識や協力のあり方を習得することをねらいとする。平常時あるいは災害時における地域社会、子ども、高齢者、障がい者への貢献の仕方について学ぶ。障がいに対する基本的理解や基礎的な支援技術を習得するため介護施設での実習（体験学習）も含む。
11	現代社会の課題：消費生活	宮坂順子	前期	講義	私たちは生活に必要なモノやサービスの多くを貨幣で購入し、消費して生活している。それはしばしば生活の安全や豊かさが脅かされることにつながる場合がある。消費者問題・消費者法の基本的な知識を学び、自立した消費者とは何かを考える。
12	現代社会の課題：生活環境	梁井貴史	後期	講義	温暖化やオゾン層の減少などの地球規模の環境問題から、ごみの問題など私たちの身近な環境問題の科学的な知識を得ると同時に、その解決策を考察する。
13	現代社会の課	中川秋美	後期	講義	急激な少子高齢化の中で、将来にわ

	題：高齢者福祉				たって持続可能な社会保障制度になっているのか。また、一人暮らしの認知症高齢者になっても安心した老後を過ごせるのか。この講義では、今日的課題である高齢者福祉について、介護保険制度を中心に制度・政策と個人の高齢期の日常生活実態の両面での理解を深めることを目指す。
14	生活学（家庭経営を含む）	宮坂順子	前期	講義	少子高齢化を背景に複雑に変化する現代社会の中にある私たちの生活を見つめる。家族、女性、経済、消費、ライフコースなどの課題を取り上げ、生き生きした生を全うするために必要な生活を営む力を身に付ける。
15	食生活論（食品学・栄養学を含む）	前田文子	前期	講義	私たちの食生活は健康に深く関係していることを知り、健康な食生活について考える。また、日本の食生活について、歴史的・文化的な背景や社会的な視点から捉えるとともに、世界の食糧事情とそこでの日本のあり方、環境問題と食生活の関連を知り、望ましい食生活について考える。さらにこれからの食生活の課題を知り、問題解決に向けての取り組みを考える。
16	住生活論	川田江美	前期	講義	本講座では、住まい本来の役割を確認するとともに、現在の住生活、住居観をその中心となる人の視点で、「人の生活の拠点となる住居」「住居の中で繰り広げられる生活」等を考察していく。特に日本人の暮らしを中心に、真の豊かさの追求、さらに快適な居住空間として住まい考える。
17	衣生活論	佐々木由美子	前期	講義	本講座は、衣生活全般にわたり、自

					然科学的及び社会科学的の両側面から総合科学的な衣生活を考える学問である。生活の中での実際的な内容を中心に据えることで、日常をテーマに衣生活を見直し、さらに時代の現状を把握し、自立した賢い生活者を育成することをねらいとする。
18	消費経済論	前田文子	前期	講義	我が国の食品の消費と流通の実態を理解し、より円滑な食品流通を考えるとともに、消費者がよりよい食品選択を行う術を会得するための基本的な考え方を学ぶ。また、各種統計資料から食品流通の変遷を読み取り、その変化の要因を知ることにより、今後の食品消費の予測も行う。さらに、近年のグリーンマーケティングやロジスティックの意味を知り、望ましい消費と流通の在り方を考える。
19	被服繊維学	川田江美	後期	講義	被服を構成している繊維の種類を、分子構造と製造法から分類して、そのグループ共通の特徴を知る。主に繊維の物理的特性及び消費性能は各繊維高分子の1次、2次、3次構造及び微細構造や形態に影響されることを理解する。
20	テキスタイル学	川田江美	前期	講義	本講座では、被服を素材面から捉え、被服のもつ自然科学的なものの見方や考え方を学ぶ。特に被服材料の構成単位である、糸・織物・編み物等を中心に、その種類や特徴を学んでいくとともに、被服の着用目的を明確にし、被服・アパレル製品の材料として考える。
21	被服管理学	板垣昌子	後期	講義	衣服は、汚れを取り、形を整えるための洗濯が不可欠である。衣服は、

					着用・洗濯などの消費過程において外部からさまざまな物理化学的刺激を受けることになる。そうした衣服をどのようにしたら美しく長持ちさせ、初期の性能を変化させずに管理できるのか概説する。
22	服飾造形論	佐々木由美子	前期	講義	高度化、多様化するアパレル生産について、素材物性、体型情報、デザイン、パターン、縫製技術を分析し、基本的技術を修得する。パターンメイキングについては、平面製図と併せて立体裁断の違いを理解し、かつ、基本的なデザインを、パターン化できる力を養う。
23	健康栄養学	前田文子	後期	講義	栄養素は私たちが生きていくためのエネルギーとなり、体を構成する成分にもなる。食品に含まれる栄養素と、それが人体内でどのような働きをするか、消化や代謝の仕組みなどについて理解する。また、ライフステージや健康と栄養素との関わりについて理解し、生活に役立てる。
24	調理学	畑江敬子 福永淑子 前田文子	前期	講義	調理学とは調理過程における食品の変化を知り、嗜好的にも栄養的にもよりよい状態になるように制御するための学問である。それぞれの調理操作の意味を知り、それを実際の調理の活かすことができるよう理解を深めていく。食品の変化だけでなく、調理器具や調理のエネルギーについても学習し、よりよい調理方法を選択できるようにする。
25	応用食品学	浜守杏奈	前期	講義	食生活の多様化により様々な食品が市場に出回っているが、フードスペシャリスト・フードコーディネーターは食の専門家として、これらの食品の知識と利用方法を身につける必

					要がある。本講義では、食品の種類・機能・成分及び加工・調理・保存による食品の変化や機能性食品の素材・種類についても学習する。
26	健康衛生論	浜守杏奈	前期	講義	食中毒・異物の混入・遺伝子組換え食品・狂牛病・残留農薬・偽装表示など、多くの問題が食品の安全性を揺るがしている。食の安全にかかわる危険要因及びそれらに対する安全管理の手段を学ぶ。
27	家庭経済学	宮坂順子	後期	講義	家計は国民経済の中で重要な役割を果たしており、社会経済環境のめまぐるしい変化は私たちの家庭経済に大きな影響を及ぼしている。消費や生活にかかわる諸問題を生活者の視点、ジェンダーの視点から取り上げる。
28	家族関係学	宮坂順子	後期	講義	社会の基礎単位である家族とは私たちにとってどのようなものなのだろうか。現代社会の急速な変化は家族関係にどのような影響を及ぼしているのだろうか。法学，社会学，心理学等の学際的な視点から「家族」について焦点を当て，家族問題の解決に向けた方策を考える。